

令和7年度第1回協議会でいただいた主な意見と今後の対応について

議 事	委員からの主な意見	今後の対応 (◇は協議会内回答)
【報告事項】 北海道博物館の組織改正	(佐々木会長) ・センター制は、それぞれ独立し、ばらばらな動きになることがある。 ・北海道博物館としての研究の特色を伝えるときに、研究センターごとにばらばらになってしまうと、何が特色が分かりにくくなる。 ・各センター長や学芸部長、事業部長がしっかり束ねていただけるとよいと思う。	・ 幹部職員を中心に、センター間で情報を共有 ・ 課題を把握し、必要に応じて組織を見直し
【報告事項】 令和7年度事業及び令和8年度事業(予定)	(小川副会長) ・ 今後、アイヌ協会の国際交流が盛んになり、アイヌの若者が外国に行ったり、海外の先住民の方が来るが多くなりそう。 ・ 北海道博物館に興味のある方がいたら、対応できるようにするとよいと思う。	◇新たに作成したネイティブの多言語解説機器なども活用し、より一層、海外の方へのサービス充実に取り組む。
【報告事項】 博物館法に基づく博物館登録	(矢野委員) ・ 「人材育成」に関しては、前期の協議会でも、職員のための人材育成、地域との教育普及活動が博物館の役割として大事になっていくと議論があった。 ・ 学芸員が力をつけるための研修であると胸を張って、予算をつけていくことが必要になってくるのかと思う。	・ 他事業に計上されている人材育成関連予算を再掲 ・ 新たな予算獲得も検討(自己点検評価12人材育成)
	(住吉委員) ・ 教育庁の通知文書の特記事項に、「公共交通機関での利用が不便、館内での食事提供の場も今後の課題として検討していただきたい」とあり、利用者のメリット、つまり、使いやすい、訪れやすい博物館ということにつなげていただきたい。	・ 利用者の安全確保とともに、ユニークベニューとしての活用方策も検討(自己点検評価6公園エリア)
【審議事項】 今後の協議会のあり方	(小林委員) ・ 年度明けに評価を行うと、その年度の予算に間に合わないのではないか。 ・ 年度末までに、評価をまとめ、次年度予算に間に合わせることはできないか。	◇翌年度の予算要求作業は、10月頃に開始するため、それまでに評価を終えることは、現実的に難しい。
	(住吉委員) ・ 次年度に評価をして、振り返った時には、その年度が半分くらい終わっていて、半年から1年遅れて施策や予算に反映されるため、もう少しスケジュールを詰められないのかと考える。	◇重く長期的な課題は、数年かけ、戦略的に進める必要があるため、特に助言いただきたい。 ・ 協議会開催前のできるだけ早い時期に評価調書を事前送付し、ご意見等いただく。
	(小林委員・矢野委員) ・ 令和10年度に中間評価と次期中期目標・計画づくりが始まるスケジュールになっているが、9年度あたりから、長めに時間をとっていただきたい。	・ 社会情勢の変化を踏まえた課題の整理など、想定される論点について、段階的に議論を進められるよう取り組む。
【審議事項】 第3期中期目標・計画期間の「評価」のあり方	(小林委員) ・ 職員は、オーバーワーク。もっと評価されてよいと思う。 ・ 通常業務を評価していても、事務作業が増えるだけなので、本来なら、新しいチャレンジをするので、予算や人をつけてくださいといった、守りではなく、攻めのメッセージが伝わるようなことができるとよいと思った。	・ 評価様式の「その他実績」欄に、「連携」や「新しいチャレンジ」なども積極的に記載し、プラス評価が見える化
	(矢野委員) ・ 学芸職員は、研究だけでなく、人的交流や情報交換の面でも非常に努力している。 ・ そのような「連携」等もプラスの評価になるよう、もう少し見える化していただき、博物館の活動が見えるようになればよいと思った。	